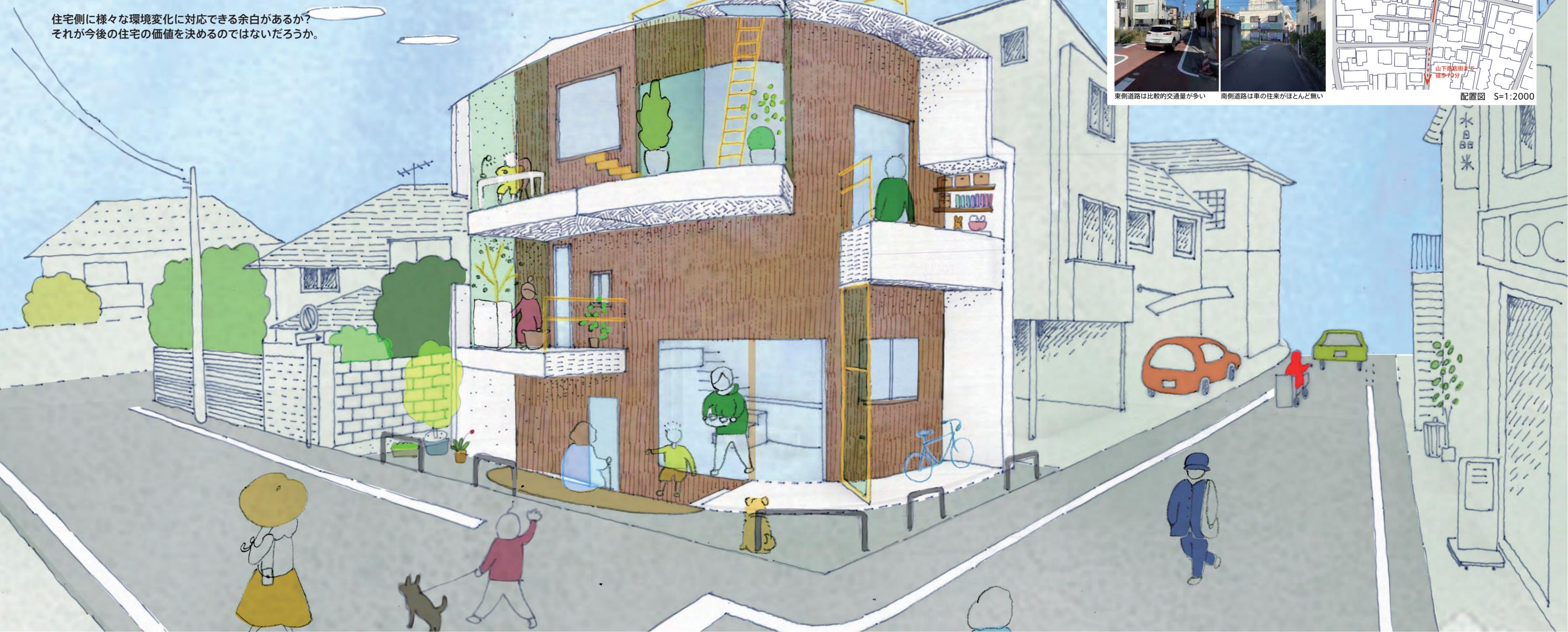


マドベハウス

この住宅には、2枚の壁の間に大きくなった窓辺のような空間がある。そこは内部からの延長でもあり外部からの延長でもある。

この空間で時間とともに生活が変化していくことを許容し、街の人々や外部環境との繋がりを構築していくことが住宅購入後の人生で一番の楽しみだと考え、それを2枚の壁とマドベという空間で表現した。

住宅側に様々な環境変化に対応できる余白があるか？それが今後の住宅の価値を決めるのではないだろうか。

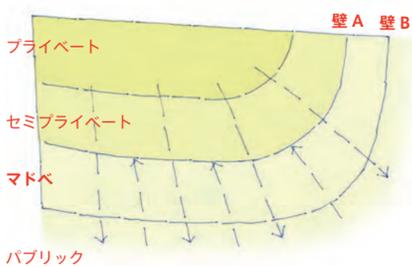


計画敷地は世田谷区松原
 周囲は住宅地ではあるが、京王線、小田急線、世田谷線の最寄り駅から徒歩15分圏内に位置することもあり、人通りも多く、駅方面に歩けば飲食店もある。また、小学校や高校、保育園も付近に多くあり、敷地付近を行き交う人の年齢層は幅広く、道を歩いても人の活気が感じられる。そこで私達はこの敷地だからこそ、住宅を家族内で完結せずに、良い塩梅で都市に開き、周辺環境と繋がりがながら生活していくことに可能性があるのではないかと考えた。

東側道路は比較的交通量が多い 南側道路は車の往来がほとんど無い

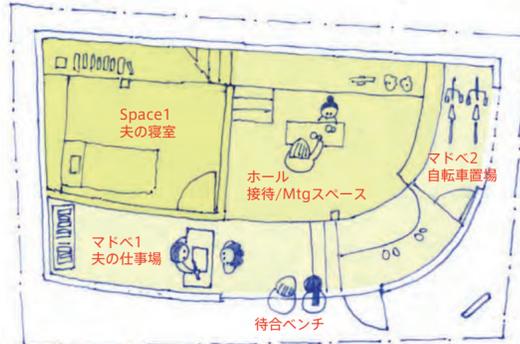
配置図 S=1:2000

領域の考え方

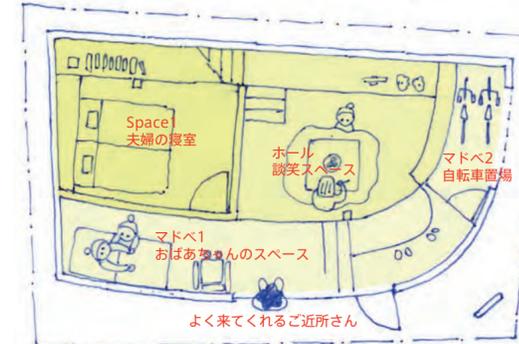


この住宅では、マドベ空間を活用することで住宅内での活動や出来事を街の人と段階的に共有できる。マドベが家の中で閉じてしまう問題を少し解消したり、逆に街の人が困っているときに立ち寄ってもらえるようなそんな両者にとって心地よい場所でありたい。

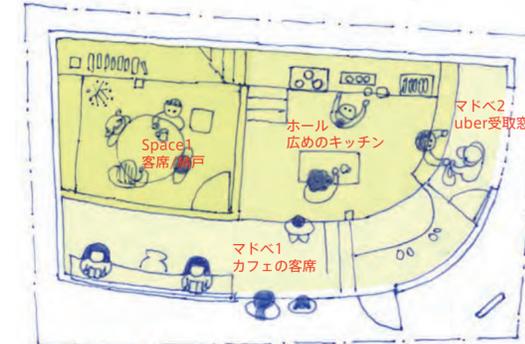
時間とともに移り変わるプラン



2023年 1階平面図 (夫婦30歳+子供3歳)
 マドベ1は建築フリーランスの夫の仕事場。休日には近所の方向への住宅相談会を開いたり。ベンチは待合になり、ホールでは奥さんがお客さんの接待を手伝ったりする。



2025年 1階平面図 (夫婦42歳+子供15歳+おばあちゃん65歳)
 夫は大きなオフィスを借りるようになり、親と同居。Space1は夫婦の寝室になり、ホールとマドベ1はおばあちゃんのスペースになる。ご近所さんが介護する側や介護される側に声をかけやすい間取り。



2050年 1階平面図 (夫婦57歳)
 子供は成人して一人暮らしを初め、おばあちゃんは死去。夫婦でマドベカフェを営む。Space1、マドベ1は主に客席として利用。住人だけで完結せず、隣近所と助け合い、開きあう関係を築く。